

2025年度 第3回地域協議会・地域医療支援委員会 議事録

【日 時】令和7年12月3日（水）13：30～14：30

【場 所】四日市羽津医療センター4F第一会議室

【出席者】柴田英治（当会副委員長、四日市看護医療大学学長）、高司智史（四日市市保健所所長：WEB参加）、水野義隆（四日市市北消防署署長）、山路和良（四日市市自治会連合会会长）、内田寛（羽津地区連合自治会会长）、徳山直子（三重県乳腺患者友の会『すずらんの会』代表）

以下 当院職員

山本隆行（院長）、長谷川浩司（副院長）、岩永孝雄（副院長）、中島滋人（統括診療部長）、石井雅昭（附属介護老人保健施設長代理）、後藤信二（事務部長）、牧野真美（看護部長）、森田不二夫（診療放射線技師長）、伊東亞矢子（附属訪問看護ステーション看護師長）、中島佐知子（地域医療連携室看護師長）、位田弥生（総務企画課長）、荒川真行（総務企画課長補佐）、澤田晴美（健康管理センター管理課長補佐）、大橋紀彦（附属介護老人保健施設管理係長）、大川奈緒子（当会事務局・総務企画課一般職員）

○開会挨拶＜山本院長＞

本日は、お忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。皆様もご存じのとおり日本の医療事情はかなり厳しい状況で公立病院の83%が赤字です。当院も今年度は非常に厳しい状況です。その原因は人件費・材料費が増加していますが、診療報酬が上がらないという事です。先月末、政府が補正予算を打ち出しましたが、大病院が優遇される補正予算となっています。日本の病院は満身創痍で常に出血している状態ですが、今回の補正予算は一部の止血にすぎない状況で根本的な改善は無く、出血が続くだろうという深刻な状況です。その中で当院のスタッフが前向きな話題を提供させていただきますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

1. 四日市羽津医療センターからの報告事項

- ・病院の現況報告について（令和7年4月～9月）

＜岩永副院長＞

【資料参照】

救急患者受入れ強化の取組み状況

受入れ台数 令和7年4月～9月 955件 前年同月比+98件

昨年に比べて救急車受入れ台数・輪番日応需率は増加しております。引き続き受け入れ強化を続けてまいります。

初診患者数と紹介患者数

初診患者 令和7年4月～9月 4193人 前年同月比+462人

紹介患者 令和7年4月～9月 2659件 前年同月比▲104件

初診患者数は前年度より増加しております。直接要請のあった患者の受け入れが増加したことが初診患者数増加の一因と考えます。残念ながら紹介患者数が減っており、当院としても真摯に受け止め今後より一層頑張ってまいります。

入院患者数

新規入院患者数（月平均） 令和7年4月～9月 411人 前年同月比+16人

1日平均入院患者数 令和7年4月～9月 161人 前年同月比+8人

当院が掲げている目標値は新規入院患者数月平均400人、1日平均入院患者数160人としており、若干増加している状況です。

・経営状況報告（令和7年4月～10月）

累計 令和7年4月～10月 131,290（千円） 前年同月比▲4,125（千円）

累計は昨年より若干減少しております。院長が冒頭挨拶で8割以上の病院は赤字経営だと話されましたが、その中でも当院は多職種が頑張って皆さんのが努力して現状ここにいるとご認識ください。

・健康管理センター事業報告（令和7年4月～9月）

院内健診月別件数（生活習慣病予防・人間ドック）

院内健診実施件数 令和7年4月～9月 15,361件 前年同月比+118件

8月が減少しております。原因としては営業日が1日少なく、一般的な企業において土日並びの影響でお盆休みが長かったこと、猛暑の影響で予約変更が多くあったことが減少に繋がった原因と分析します。9月からは、昨年度並みに回復しております。

院外健診月別件数（生活習慣病予防・人間ドック）

院外健診実施件数 令和7年4月～9月 15,839件 前年同月比+121件

ほぼ例年並みに推移しております。

院内特定保健指導実施件数

4月～9月の指導件数は前年より若干減少し、前年同月比▲15件となっております。

院外特定保健指導実施件数

4月～9月の指導件数は前年より増加し、前年同月比+103件となっております。増加の要因はウェブでの保健指導を開始したため件数が伸びていると考えます。

・附属介護老人保健施設利用状況報告（令和7年4月～9月）

入所者平均前年比 令和7年4月～9月 87.7人 前年同月比▲0.1人

短期利用者 令和7年4月～9月 1.0人 前年同月比▲1.5人

入所率 令和7年4月～9月 88.7% 前年同月比▲1.6%

目標としております90人を下回っている状況です。

在宅復帰率 令和7年4月～9月 64.3% 前年同月比+5.2%

4月・5月と50%前半で推移しておりましたが、6月以降については目標としている60%に到達しております。

通所利用者平均 令和7年4月～9月 16.8人 前年同月比+3.1人

目標を20人と設定しておりますが、徐々に増加しており、「お試しデイ」を設け体験していただき徐々に増加していると考えます。

(面会方法の変更)

令和7年11月4日より面会方法が変更になりました。今まで1階フロアで面会していただいておりましたが、各フロアに面会場所を設置して面会時間も15分から30分に延長させていただきました。

新型コロナ感染症・インフルエンザ等の感染症の発生時期につきましては、三重県の定点観測の数値を基準に1階ロビーにて面会を変更して行っております。各時間の枠数も1家族様から最大3家族様へ増加しており、面会頻度も以前より頻回に実施できるようにしております。

・附属訪問看護ステーション利用状況報告（令和7年4月～10月）

実利用者数 令和7年4月～10月 570人 前年同月比+67人

昨年度と比べ利用者数は増加しております。特定行為研修終了看護師（栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連と創傷管理関連）の活動をご理解いただき訪問診療医師より直接、褥瘡管理や脱水アセスメント点滴の実施を目的とした依頼をいただけるようになったことが増加の要因と考えます。

延べ訪問件数 令和7年4月～10月 3,842件 前年同月比+390件

10月に関しては600件を超えるました。今後ともスタッフ一同努力を重ねてまいります。

・タスクシフトについて

<長谷川副院長>

当院におけるタスクシフト・シェアについてご説明させていただきます。これまである職種が担っていた業務を他の職種にシフトすることや、シェアすることでこれまでの「チーム医療」をさらに発展させたものです。国を挙げて取り組んでいる大きな医療変革の動きであり、個々の業務負担を最適化しつつ、医療の質を確保する方法の1つとして推奨されております。職種の垣根を超えた多職種の取り組みで、特定行為は専門的な研修を受けた看護師が医師の指示を受けて実施する特定の診療補助行為を言います。当院では特定行為研修修了者が4名在籍し、持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整を行ったり、脱水症状に対する輸液による補正を行ったりして訪問看護でも活躍しているところです。褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去や、創傷に対する陰圧閉鎖療法を看護師が実際行っています。直接動脈穿刺法による採血、橈骨動脈ラインの確保を行うことができる看護師やインスリンの投与量を調整している看護師も在籍しており、通常であれば医師が行う業務のところ特定行為研修修了看護師が医師の補助として業務を遂行してタスクシフトに取り組んでおります。放射線部門においては造影剤を使用した検査やRI検査のために静脈路を確保する行為及び薬剤を注入するための装置への接続・操作、抜針と止血を行う行為、動脈路に造影剤注入装置を接続・操作する行為、またIVR診療の補助、下部消化管検査のため注入した造影剤及び空気を吸引する行為をしております。画像診断における読影補助でCT・MRIの画像は専門の放射線医師に読影してもらいますが、リアルタイムでチェックしてもらう事が出来ない場合があり、画像に異常があった場合きちんと報告し

てもらい、見落としがないかチェックしてもらう補助を行ってもらい、検査をオーダーした医師が読影レポートをきちんと確認し適切に管理できているかチェックしてもらっております。臨床工学部門においては心臓カテーテル検査や治療が必要な時、内視鏡を用いた検査や処置が行われる時に医師のサポートを行っております。腹腔鏡手術が実施される時、カメラの操作を行っております。検査部門においては採血や心臓カテーテル検査、内視鏡検査のスタッフとしても業務を行っております。医師が行っている肛門内圧検査や関節エコー・乳腺エコーも行い、職種の垣根を超えた取り組みを現在行っております。

(副委員長)

特定行為の履修は大変そうですが、かなり時間がかかりますか。

(長谷川副院長)

準備期間も含めると最短でも1年ぐらいです。

(副委員長)

研修中は他のスタッフが業務を補っているのですか。

(長谷川副院長)

そうですが、そこは上手くシフトを組んでおり、職種間で協力しております。

(牧野看護部長)

補足させていただきます。JCHOでは施設内で研修を受けることができ、働きながら勉強して、実習ができるので特定行為の資格は取得でき、組織として恵まれています。JCHO以外であれば大学院に行ったりして、その期間は現場を離れて勉強していくかしないといけませんが、当院は働きながら勉強を行えるので、とても資格が取得しやすい仕組みとなっております。医師が講師になってくださいり、とてもありがとうございます。

・健康講座ご案内について

<牧野看護部長>

看護師たちが様々なところで皆様の健康のお手伝いをさせていただきたいというご案内になります。講座内容に関してはどんな内容でも担当者を決めてご対応いたします。勤務時間内に伺いますが無料ですので、なるべくなら10名以上でお申し込みいただければありがたいと思います。施設および病院の医療者または一般の方を対象にどちらにも対応しておりますので、どうぞお気軽にお声掛けください。ホームページより申込用紙をダウンロードできますがご不明な点がございましたらお電話いただければと思います。是非皆様にご紹介いただき、当院の看護師たちが少しでも地域に貢献できるようにいたします。

(患者代表)

四日市市内で対応ですか。

(牧野看護部長)

そうです。近ければ四日市市以外でもいいですが、やはり地域貢献としておりますので原則は四日市市内としております。

・クラウドファンディングについて

＜森田診療放射線技師長＞

「四日市羽津医療センター発！巡回健診車の更新で地域の健康を守りたい」と言うテーマで働く三重を支える巡回健診車のクラウドファンディングを行っております。こちらにつきまして活動報告をご紹介させていただきます。一番目にクラウドファンディングの発足の経緯、二番目にプロジェクトの活動状況、三番目に健診車クラウドファンディングのお願いをさせていただきます。まず、発足の経緯ですが当院の2024年度の健診の業務実績ですが年間約9万件の健診を行っております。その内、院内健診が約4万6千件、健診車を使った巡回健診が約4万3千件です。生活習慣病健診車で胃と胸部のレントゲン撮影できるバスが最大5台稼働します。北は藤原町から南は鵜殿村まで走って健診を行っております。今回、10号車バスの老朽化が進み、更新することになりました。導入から24年経過してバンパーが何もしないのに割れている、リアガラスのボードが割れている、内装の立て付けが悪くなる、テントにカビが生えるという事になってきました。レントゲンの装置に至ってはボタンが剥がれて職員が手作りで修理を行ったり、レントゲンの装置も撮影はしっかりとできますが透視画像が非常に見えづらい状態になっており、導入から24年経過しておりますので修理部品がほぼありません。また、メーカーのサポートも切れており、壊れたら大変な事になります。壊れることにより健診日程の組み直しが必要となってしまいます。今回、新しく更新する健診車の導入費用は8,250万円（税込）かかります。現在、熊本の車体メーカーと交渉しています。健診車というのは病院が遠い地域でも、日々の業務で忙しい方でも、誰もが健診を受けられる機会を守ることが私たち健診センターの使命だと思っております。近年の物価上昇や当院だけで早期更新を実現するのは非常に厳しい状況にあります。そこで、この度当院はクラウドファンディングに挑戦いたします。このクラウドファンディングは単なる車両の買い替えではなく、地域・企業の皆様と強い絆で結ばれ、未来に渡り「地域の働く人々の健康」、「地域社会の活力」を守り続けるための重要なプロジェクトと捉えています。実際のプロジェクト活動状況をご紹介いたします。管理者である長谷川センター長をはじめ総勢17名で構成しております。目標金額は1,200万円で、期間は2025年12月15日から2026年2月27日の間で行います。2025年8月19日にキックオフミーティング開催し、毎週木曜日に定例会議を行い、ほぼ毎日作業部会（放射線部内に設置）にて活動しております。活動は多岐にわたりますが、依頼先リストの作成、寄付金リターンの作成、マスメディアへの投稿（WEB・記者クラブ）、広報物の作成（ホームページ、応援コメントの依頼、ポスター、院内ブースの設置）、イベントへの参加、寄付金募集活動を行っております。先日、11月23日に四日市商店街で行われた「どこわか健活フェスタ in よっかいち」に参加してきました。保健師の協力を得て健康相談や血圧測定、オプション健診のご案内、クラウドファンディングのご案内をさせていただきました。血圧測定は38名、健康相談は22名来ていただきました。こういったイベントには市長、県議会議員、市議会議員の方々がいらっしゃるので、この機会に応援コメントを頂けるような活動を行いました。また、マスコミはYahoo!ニュースに取り上げていただきました。YOU Yokkaichi の記事ですが「JCHO 四日市羽津医療センターのブースでは、血圧測定や健康相談がしてもらえ、森智広市長も血圧を測ってもらっていた。同医療センターは県内各地へと巡回健診車を走らせて健康管理活動をしているが、この健診車の老朽化が進み、近く、1台を更新するためにクラウドファンディングで支援を求める計画中だという。」という記事内容です。院内にクラウドファンディングのブースを設置します。現金をお持ちいただく方もみえますが3千円から現金を承ります。これから設置を行いますが医事課受付前と健康管理センター受付横にブースを設置します。次に、健診車クラウドファンディングのお願いという事で、皆様から

のご寄付は安心・安全な健診の継続、健康経営の推進、笑顔で働く日々、この巡回健診車の更新プロジェクトを通じて、働く人々の健康を支える身近な存在として、皆様に信頼される活動を続けてまいります。未来の働く健康を守るという私たちの挑戦に、どうか温かいご支援をお願いいたします。

(行政)

寄付金控除についてはどうなるのでしょうか。

(森田診療放射線技師長)

控除対象です。寄付を募るにあたり趣意書というものがございまして、そちらに税控除のことも記載しております。

(副委員長)

今まで健診車を更新する場合は JCHO のお金で更新されていたという事ですか。

(森田診療放射線技師長)

そうです。今回クラウドファンディングで寄付を募るという取り組み自体は四日市羽津医療センターでは初めてです。

(副委員長)

健診車で、宝くじで協力を得たという事を書いているものを見かけますが、そういうものは利用できないのですか。

(森田診療放射線技師長)

宝くじ号等よく見かけられると思いますが、当院は公的な国の機関に属し、厚生労働省の配下となりますので、宝くじ等の補助は受けられないです。

(患者代表)

クラウドファンディングの事をインスタに載せることはできますか。

(森田診療放射線技師長)

はい。

(患者代表)

プロジェクト編集もすごく大変ですが、皆さんで活動されているのでいいなと思いました。私は1人でプロジェクト編集をしておりましたので羨ましいなと思いました。ぜひとも成功していただきたいので一緒に頑張らせていただきます。

(森田診療放射線技師長)

ありがとうございます。

2. その他

なし

3. 意見交換

(自治会)

11月7日に防災訓練があり、300人以上の方が参加しますので、そちらでクラウドファンディングのPRをしていただければと思います。地域としても協力していきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

(行政)

救急の受け入れが右肩上がりという事で、ご協力いただきましてありがとうございます。日頃からも検証委員会等でお世話になっております。先程のお話の中の出前講座について、消防職員も対象にしていただけるのでしょうか。

(牧野看護部長)

もちろんでございます。

(自治会)

出前講座ですが、定期的に月1回ぐらいで時間を決めて講演するとお年寄りの方は興味を示して、次はどんな話をしてくれるのだろうという事で、色々なお話を順番にされると1年はできるのではないかと思います。

(牧野看護部長)

ありがとうございます。時間等については平日の8時30分から17時15分までがありますが、それ以外であれば要相談とさせていただきます。

(自治会)

かかりつけ医から四日市羽津医療センターに紹介してくれた日に来院しましたが、「今日はやつていませんので改めて確認してください」と言われました。かかりつけの病院も紹介するときに何曜日の何時ぐらいが一番いいですよと言ってくれると何回も来院することもない感じましたし、病院間で連携がとれているとすばらしいなと思いました。

(行政)

OBとして最近の目覚ましい救急の受け入れがすばらしいなと思っております。皆さん大変かと思いますが頑張ってもらっているので誇らしく思います。

4. 閉会挨拶<長谷川副院長>

本日はご多忙の中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。今年に入りまして以前のような形から脱却しまして意見交換や情報提供に工夫して開催させていただいております。まだ至らない点あるかと思いますが、日々、職員一丸となり努力して地域の方々に医療提供させていただきますので、今後ともご支援よろしくお願いいたします。

次回開催は改めて日程調整を行います。